

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社 やさか		
事業所名	グループホームすずらん 壱番館		
所在地	佐世保市大宮町46-16		
自己評価作成日	令和3年 10 月 14日	評価結果市町村受理日	令和4年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく暮らしたいという理念に基づき、入居者の方々ができる限り自立した生活を送れるような支援に努めています。また、安心して生活していただくために訪問看護や24時間の医療連携等も継続しており、安心・安全を提供できるようにしています。コロナ禍のため外出等を実施しにくい中ですが、施設内の工夫等により季節感を出して楽しんでいただけるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地に建ちモダンな平屋造りで、玄関先の花や植物で季節を感じることができる。理念の「いつまでも自分らしく暮らしたい」を基に、入居者の思いや意向を大切にしながら、その人らしく暮らし、保有能力を活かした介護実践を行っている。常に本人の立場に立った柔軟な支援や管理者と職員の優しい言葉掛けと笑顔での対応が、入居者の穏やかな表情に現れている。また、地域との関わりを大切にしており、事業所を地域の行事の会場に提供したり、清掃活動に参加する他、住民が事業所の草刈りを手伝うなど浸透していることがわかる。更に主治医と訪問看護師、家族、職員の連携にて、“最期までここで暮らしたい”との本人の思いに寄り添い、毎年複数の看取りの実績があることは特記すべきである。代表の働きやすい職場環境づくりが職員間のチームワークの良さとなり、入居者の安心した暮らしに繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を実践できるよう職員が入居者の思いに寄り添い、1人一人に合った生活が送れるよう支援を心がけています。	「いつまでも自分らしく暮らしたい」との理念を基に、管理者・職員は各入居者がその人らしく、これまでの習慣や生活ペースに合うようケアの実践に取り組んでいる。起床や食事時間を柔軟に対応したり、全てにおいて入居者に無理強いないケアの実践は、理念の具現化が見てとれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は地域とのつながりができるよう、行事や外出等を通じて交流を行っていましたが、現在は厳しい状況です。	事業所は、地域の100歳体操に会場を提供し住民が参加したり、学生の職場体験など交流を図っているものの、現在はコロナ禍で見合わせている。町内会員として、回覧板を回し清掃活動に職員が参加し住民もまた草刈りの手伝いに訪れている。手作りマスクや古新聞の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する情報や疑問など、機会があれば地域の方にお話しています。現在使用していないスペースを地域の方々に使っていただけるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は2か月に1回、町内の方、ご家族に参加していただいていたのですが、コロナ禍により書面会議という形で意見書にご意見をいただき、サービス向上に努めています。	年6回、現在は書面会議である。規定の参加者に、事業所の状況、取組など報告内容の議事録や意見書を郵送し、返信封筒や電話で要望、意見などを聞いている。参加者以外の家族にも議事録を郵送しており、事業所の状況がよくわかると好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは電話やFAXにより連絡のやり取りを行い、必要な場合は直接お会いするなど協力関係を築いています。	市との連絡は主に、FAXやメールで情報交換している。地域包括支援センターに相談や問い合わせを行い、センターから行政に繋ぎ情報共有している。市主催の研修会はスペースを作り、リモート研修を職員が受講する等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本人に危険が及び、ほかに代替手段がない場合に限り、了解をいただいたうえで行っています。その後もモニタリングを行い、必要性がない時はすぐに停止するようにしています。	身体拘束廃止委員会が、制止する言葉の言い換え等、具体的な対策を検討している。夜間の転倒防止のセンサーは、家族の同意と廃止に向けた検討を行っている。入居者の気分転換に散歩やペランダ、玄関先で日光浴を日常的に行い、抑圧感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で研修や話し合いを行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を十分活用できるよう、情報・疑問に関してわかりやすく説明を行い、専門家に相談しながら支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時に書面を用いてわかりやすく説明を行い、ご家族の疑問に対しても理解を得られるよう説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族から意見をいただけるよう職員が声掛けを行い、いただいた意見は真摯に受け止め話し合いを実施して反映させています。	利用開始時に苦情相談窓口の説明を行うと共に、意見箱を設置している。職員は家族の訪問時や電話で、気軽に話して貰えるよう声掛けしており、要望に応え、面会がガラス越しから玄関ホールでの対面が可能になり、家族の安心に繋がっている。毎月のホーム便りに個別のコメントを添えており、状況を共有するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は個々に話を聞き、ユニットリーダーを中心に話し合いを行い、より良い運営を行えるように努めています。	カンファレンス会議のみでなく、日頃から職員は意見や提案を出しており、毎日管理者が代表へ伝えている。代表の配慮もあり、風通しの良い働きやすい職場環境となっており、職員のチームワークも良好である。車椅子利用の入居者のテーブルを変え、高さ調整する等職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専門家の意見を参考にしながら、職員が働きやすい環境を提供できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会に参加したり、職員同士で教えあい、意見交換を行うなどしてスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村やグループホーム協議会を通じて研修や勉強会に参加して交流し、サービスの向上につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族・担当ケアマネなどから情報や生活歴を聞き取り、スタッフ間で情報を共有し、安心して生活していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごとや不安はその都度お話を聞き、スタッフを含め話し合い、何度も話していただけるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族が求めるサービスをできるだけ提供できるよう、専門的な意見も取り入れ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここに話を伺い、思いを共有して、できる事・やりたい事を見極めコミュニケーションを取りながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の思いを伝え、ご家族にできる事は協力していただけるよう声掛けを行い、一緒にサポートしていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で以前のようにはいきませんが、できるだけご家族の協力を得て、感染対策を実施した上で関係が継続できるよう支援に努めています。	以前からの習慣や生活歴を把握し、会話から馴染みの関係を新たに聞いた場合は、ノートに記録している。馴染みの美容師に訪問依頼したり、長年日記を継続していたり、毎日電話で話す入居者もいる。成人式を迎える孫と玄関先で写真撮影する等、家族の協力を得ながら馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや工作など、入居者同士と一緒にできるよう検討し、会話できる環境を提供できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も担当ケアマネなどに連絡し、協力を惜しまないよう努めています。またご家族のご相談にも対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動から入居者ご本人の思いや要望をくみ取り、スタッフ間で共有し、思いや意向に沿えるように支援しています。	職員は入居者と1対1の時に、思いや行いたいこと等を聞き取っており、職員間で検討している。発語困難な場合は返事しやすいよう声掛けし、表情や仕草から思いを汲むように努めている。難聴の場合は耳元でゆっくり話し、聞いている。把握した内容は、個人記録に追記し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、ご本人・ご家族・担当ケアマネから情報をいただき、スタッフ間で共有し把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人ひとりの心身状態を把握し、これまでの生活と残存機能を活かして介護できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の要望や問題点などについてスタッフ情報共有して援助方法などを出し合い、ご家族や主治医などに相談しながらより良い計画作成に努めています。	介護計画は、長期1年短期6ヶ月で目標を設定し、10日おきにモニタリングを行っている。介護計画更新時には、面会時や電話で家族の希望を聞き取り、同意のもと実行している。入居者の思いを介護計画の目標に反映し、日々の暮らしを支援している。職員は介護計画に即した支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者の様子や対応に関することを記録し、今後の介護に活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズに応じてスタッフで対応できること(通院や買い物など)に関しては、できる限り要望に沿えるよう努めていますが、コロナ禍のため実践できていないこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前はドライブや買い物など地域資源を役立てていたが、なかなか利用できない現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や受診により、入居者の健康管理を行っている。また、週1回訪問看護ステーションを利用し、入居者やご家族にも安心して施設での生活を送っていただいています。	主治医による往診と訪問看護利用により、入居者が適切な医療を受けられるよう支援している。通院は職員が対応し、状況に応じ家族も同行している。受診内容は、職員間で申し送り、家族とも共有している。夜間・緊急時の医療連携を確立しており、安心安全な体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを実施して入居者の状態を把握し、特変があれば連絡を行っている。入居者・スタッフの不安や疑問に関しても相談し、指示やアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族者入院先のソーシャルワーカーと密に連絡を取り、入居者の現状把握に努めている。面会に行き、直にご本人の意向を聞くなどし、早期退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族・職員で連絡を密に行い、状況に応じてご本人・ご家族が望まれる終末ケアを実践できるよう配慮しています。	事業所は、重度化した場合における対応に関わる指針を作成し、利用開始時に説明し同意を得ている。入居者の体調変化時、主治医から家族に説明があり、改めて今後の支援について説明し、同意を得ている。延命処置や緊急搬送の確認、看取り時に家族が居室で過ごせるよう、宿泊の際のサポートも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には速やかに主治医に連絡し、支持を仰ぐ体制を整えている。スタッフは応急手当や心肺蘇生法などの訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な火災訓練・避難訓練を行い非常時に備えている。また毎日防火管理のチェックを行い、火災を未然に防ぐよう努めています。	年2回火災・避難訓練を実施している。今年はコロナ禍にあり、消防署や地域住民立会いが見送られている。避難誘導や夜間想定など、これまでの訓練の反省やアドバイスを取り入れながら実施すると共に、毎日防火管理チェックを行っている。ただし、緊急時の職員連絡網の確認や持ち出しリストなど整備中である。	避難訓練に加え、緊急時の職員連絡網の確認を加えることが望まれる。また、入居者が避難先での生活に支障がないよう、状況に即した持ち出しリストの作成等、期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の意向を否定せず気持ちを受け入れ、1人ひとりの思いを尊重して生活を送っていただけるように努めています。	職員は、穏やかな声のトーンで入居者の尊厳を大切に言葉で声掛けを行っている。羞恥心に配慮し、さりげない支援に努めており、同性介助も対応している。個人に関する書類は事務所で管理し、職員に守秘義務の周知を徹底している。写真などの個人情報使用に関する同意を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者への声掛けやスキンシップを行い、本人の思いや希望を伝えやすいような関係づくりに努めています。その中で希望を実現できるよう働きかけ支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の性格、生活歴、環境を理解して相手の立場に合わせて支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者のこれまでの生活での趣味嗜好を尊重しながら支援を行っています。本人が好む日用品や洋服などをご家族に連絡し、購入するなどしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に入居者と食事の好みや作り方などの話を行い、食事に対する楽しみに活かしています。また、簡単な下ごしらえや片付けなどを一緒に手伝っていただいています。	献立作成と食材調達は、外部業者を利用しており、入居者の嗜好や行事食などに合わせて、業者を選択している。職員は入居者が食べやすいよう調理し、咀嚼に合わせた盛付けや使用する食器を工夫している。職員が作った干し柿や旬の果物を味わったり、誕生会など特別な食事会を企画する等、食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量のチェックを行いながら、異変があれば主治医に相談し、食べやすい形態や栄養補助職を利用するなどし支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けを行い、入居者個々にあった介助をしています。スタッフは口腔ケアの講習などに参加し、その重要性や方法を理解できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立して排泄が行えるよう、個々の排泄の記録をもとに声掛けを行ってトイレ誘導しています。入居者が心地よく生活していただけるよう支援しています。	排泄介助の状況は排泄表に記録し、トイレでの座位による排泄ができるよう検討し支援している。入居者の保有能力を大切に、職員が必要な部分を介助することで、スムーズな排泄に繋がっている。事業所は、トイレ誘導のタイミングや声掛け、パッドの種類を検討することで、入居者が快適で不安なく過ごせるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、個々の状況を把握し、便通に良い食品の利用や体操などを行い予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように、入居者が自分でできない部分は支援を行い、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるよう努めています。	毎日午前中入浴を準備し、週2回を目安に声を掛けています。入居者の体調や希望を汲みながら、浴槽に浸かったり、シャワー浴で対応する等、支援している。入居者の安全確保のため、滑り止めなど入浴補助器具を適時活用しており、入居者は安心して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の時間の流れに合わせ、居室内や身の回りに気を配っています。室温や気温の変化を考慮して気持ちよく休んでいただけるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは入居者個々の内服薬の情報を理解し、服薬後の観察も行っています。セット時・内服時には誤薬がないようスタッフ間でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴などから、個々に合った趣味やお手伝いを行っていただけるよう努めています。また、楽しみ事や気分転換を実践できるようご家族にもご協力いただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もありなかなか実践できない状況ではありますが、ドライブの日を設けて外出したり、一緒に買い物に行くなどしています。	コロナ禍にあり、従来のような自由な外出は自粛しているものの、天気の良い日は玄関先で外気浴の時間を設け、外の空気や季節の移ろいを楽しんでいる。また、市中のコロナ感染状況を確認し、入居者の感染予防に努めながら、個別のドライブ支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に1度入居者の金銭の内容をご家族に報告しています。希望される方はご家族の了承のもと所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者への電話は取次お話ししていただいています。電話を希望される場合はご家族の了承のもと利用していただいています。手紙は本人に渡し、必要な場合は代読し伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が過ごしやすいよう季節を感じるフロア作りを心がけています。壁に張り紙をするなどして対応しています。	リビングの天窓は、布で光を調節し快適な明るさである。入居者はテレビを鑑賞したり、読書、パズル、塗り絵、折り紙、新聞折りなど好きなことを自由に行い、談笑しながら楽しむ様子が覗える。天井からの工夫ある飾り付けで季節も感じられる。掃除や温湿度も管理が行き届き、清潔で臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者個々のご自分の好きな場所で過ごせるように、テレビ・ソファー・本が読めるなど配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはこれまでの生活で利用していたものを持ってきていただき、違和感なく生活していただけるようにしています。入居後もご本人の意向に応じてストレスなく過ごしていただけるように努めています。	居室は、フローリングでベッド、寝具、クローゼットの設置がある。自宅から位牌やテレビ、椅子、ぬいぐるみなどの愛用品や本等を持ち込み、家族の写真や壁に貼る等、安心して寛げる空間である。夜間使用するポータブルトイレには日中は布で覆い、職員による掃除や換気も行き届き、臭気も無く清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ご本人ができる事を尊重し、自立できるよう見守り、今後できる事・わかることが減ってきても安心して生活が継続できるよう支援していきます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社 やさか		
事業所名	グループホームすずらん 貳番館		
所在地	佐世保市大宮町46-16		
自己評価作成日	令和3年 10月 8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 11月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念に基づき、入居者の方々が日々安心して楽しく安全に生活ができるよう支援しています。コロナ禍で外出や外部との交流ができませんが、施設内で体操やレクリエーションを行ない、穏やかに過ごされています。24時間医療連携体制や訪問看護も継続し、介護、医療両面の充実を図り体調を管理しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回カンファレンスを行ない介護計画を検討し、「自分らしく暮らしたい」という理念に繋げていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、清掃活動を協力して実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の際には地域の方々に施設に来てもらうなどしていたが、コロナ禍のため現状では交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為2ヶ月に1回書面会議を実施し、関係各所から意見書を提出して貰っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の事情を説明し、疑問がある時などは長寿社会課や包括支援センターに問い合わせしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人に危険がある場合、他に代替の手段がない場合に限り身体拘束を行なっているがより十分に配慮しながらケアに取り組み、モニタリングしながら解除に向けて検討を重ねている。職員は拘束のない支援を理解しており、全員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の資料や新聞記事等を用いて内部研修を実施し、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	正しい情報を学び、不安や疑問に対しては十分に説明し、専門家に相談しながら支援して行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きの際に、契約・解除については十分納得いくまで説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面会議の意見書や面会時等、日常で出た意見や要望はできるだけ参考にする。各玄関先に意見箱を「設置しており、直接伝えにくい場合は利用して頂く。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見等はカンファレンスやリーダーを中心に話し合いの場を設けて反映させていく。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては専門家の意見を参考にしながら、勤務者の状況を把握し向上心に繋げていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や勉強会を開催し、スタッフ同士でケアの知識や実力を高めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設より入居の申し込みや空床の問い合わせを頂いたり、入居前の施設見学、入居後の様子うかがいの訪問等がある。その際に情報交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー、担当医、家族にこれまでの生活歴を聞き内容を理解した上で本人が安心できるよう言葉かけを十分にしながら関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事について担当者の連携を深め、スタッフを含め家族に対して理解して頂けるよう関係作りに努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的な意見を取り入れ、サービス利用の優先順位を決め、どう判断し動くのかを見極めれサービスに対応し努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりに対して時間を共有する中で出来るだけ話を聞き、お互いの心が通じ合うコミュニケーションをとり関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でもお互いが歩み寄れるように、家族と本人との連絡を大切に、共に本人を支えていく関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の訪問は家族の同意を得て面会できるようにしている。家族の協力の下冠婚葬祭や墓参り等、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや工作、歌など、一緒に楽しめることを検討し、穏やかに過ごせるよう支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーや担当医と連携し検討しながら、施設でできる事があれば相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にゆっくり会話をする時間を設け、その多岐に発せられる本人の希望や思いを支援に繋げていく。要望を叶える為にスタッフ間で共有し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族・本人・ケアマネージャー・医療機関等より情報を収集する。入居前に面談し、本人・家族からの聞き取りや施設からの情報提供表などを見てスタッフが把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人一人の身体の状況に応じて見守りや会場を行う。入居時に家族・本人・ケアマネージャー・医療機関等より情報収集し、残存機能や生活歴、これまでの経験を活かせる生活環境づくりに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の周辺症状や問題点はその都度スタッフ全員で情報を共有。援助内容を検討している。場合によっては家族や専門医、訪問介護の看護師へ報告・相談し指示やアイデアをもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者の様子、行動、発言等を詳しく記入している。対応の仕方も成功した例を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出や面会を規制しているため、「家族へ電話したい」「服を買いに行きたい」等の要望はスタッフが代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	整容の為、定期的に地域の美容室より来設頂きカットをしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診や定期受診により支援している。週に1度訪問看護ステーションより訪問があり、医療と連携している事は家族・入居者・スタッフとも安心に繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックを実施している。スタッフも不安や疑問に思っている事、処置の方法等を相談し指示やアドバイスをいただくことで的確な支援・指導を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院と24時間連携しており、急変時の対応や相談にのって頂いている。入院時には入院先のソーシャルワーカーと常に情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は特に家族との連絡を密にしている。十分に説明を行い、家族の心情を察しながら家族が希望されれば終末期ケアや看取りも行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はすぐに主治医へ報告し、指示を仰いでいる。また、毎年消防署より応急手当や心肺蘇生法、AEDの使用方法などの訓練を受けていたが、現在はコロナ禍の為自粛中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	施設内はすべて防火素材のカーテンを使用しており、スプリンクラーも各居室・フロアに設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい人間関係を構築する為に言葉かけを十分に行う。気持ちを否定せず意向や思いを共有する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々の個性の違いを尊重し、常に暖かい言葉とスキンシップを心掛けている。その中で希望を実現したり、できる事・やりたい事を叶えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務ばかりを優先する事のないよう、入居者の意向を優先するようにしている。入居者1人一人の個性、生活史や環境を理解し、相手の立場に立つてのコミュニケーションを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族同意のもと、地域の美容室より来設して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方にもできる範囲での手伝いをお願いしている。※テーブル拭き、下ごしらえ、下膳や洗い物等 スタッフも同じテーブルで食事をし和やかな臍に木造りを心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や何らかの栄養素が不足していると主治医に診断された場合は個別に補助食品等を提供し経過観察をしている。また、個別に食事摂取量を記録し、バランスを考慮した上で個別量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後に1人ずつ誘導し口腔ケアを実施している。義歯の方は夕食後に洗浄液につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間問わず、各々の排泄パターンを把握し言葉かけを行っている。夜間にポータブルトイレを使用される方についてはセンサーマットを用いて見守り、介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に水分摂取できるよう言葉かけを実施している。排泄チェックを行い、個人個人のリズムを把握するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴にて支援を行っている。自分でできることについては見守りつつ行っていただき、行き届かない部分を介助にて行っている。希望があれば入浴日や時間を変更し、ゆつくりと入浴を楽しめるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の時間の流れに合わせ、居室内や身の回りに気を配っている。気温や湿度の変化、服装などを考慮し、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服されている薬の内容を把握するため、日ごろから内服薬説明書を確認している。セット時や介助時に誤薬が起きないようにチェック体制を二重三重にして気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を把握し、カラオケや折り紙、塗り絵など、本人のやりたいことをしていただく。また、食事の下ごしらえや洗濯物を干したり、畳んだりなど居室に閉じこもらないように声掛けを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ本人の希望を尊重し、週1回交代でドライブや買い物に出かけていたが、現在はコロナ禍のため行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に1度金銭の使用内容をご家族に報告する。希望される方については、買い物時にお金を所持していただく場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望されたときはスタッフが発信し、本人に取り次ぎ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の壁やボードは季節を感じられるように飾り付けをしている。天窓は布カーテンにより日差しを調節し、居室出入り口にはドア代わりに落ち着きのあるカーテンを使用して心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは仲の良い入居者同士で談笑されたり、畳スペースでは音楽を聴かれたり、時には昼寝をされたりと自分の過ごしやすい空間を見つけてゆったりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に必要なものは自宅から持参していただき、少しでも違和感をなくして生活できるよう支援している。入居後も必要なものがあれば家族に相談して用意してもらったり、生活感が出るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事は自立していただき、危険性がある場合はしっかりと見守りを行い対応している。できる事や分かることが減ってきてても安心して生活が維持できるよう、工夫しながら支援している。		